

## 純淡水魚と水生植物を指標とした湖沼の

### 生物多様性広域評価の試み

【水環境対策チーム】

松崎 慎一郎<sup>1)</sup>、西廣 淳<sup>2)</sup>、山ノ内 崇志<sup>2)</sup>、森 明寛<sup>3)</sup>、蛭名 政仁<sup>4)</sup>、榎本 昌宏<sup>5)</sup>、  
福田 照美<sup>6)</sup>、福井 利憲<sup>7)</sup>、福本 一彦<sup>7)</sup>、後藤 裕康<sup>8)</sup>、萩原 彩華<sup>9)</sup>、長谷川 裕弥<sup>10)</sup>、  
五十嵐 聖貴<sup>11)</sup>、井上 栄壮<sup>12)</sup>、神谷 宏<sup>13)</sup>、金子 有子<sup>12)</sup>、小日向 寿夫<sup>14)</sup>、紺野  
香織<sup>5)</sup>、松村 俊幸<sup>15)</sup>、三上 英敏<sup>11)</sup>、森山 充<sup>16)</sup>、永田 貴丸<sup>12)</sup>、中川 圭太<sup>14)</sup>、大内  
孝雄<sup>14)</sup>、尾辻 裕一<sup>17)</sup>、小山 信<sup>6)</sup>、榊原 靖<sup>18)</sup>、佐藤 晋一<sup>4)</sup>、佐藤 利幸<sup>5)</sup>、清水 美  
登里<sup>19)</sup>、清水 稔<sup>20)</sup>、勢村 均<sup>21)</sup>、下中 邦俊<sup>16)</sup>、戸井田 伸一<sup>22)</sup>、吉澤 一家<sup>10)</sup>、湯  
田 達也<sup>17)</sup>、渡部 正弘<sup>23)</sup>、中川 恵<sup>1)</sup>、高村 典子<sup>1)</sup>

全国の地方環境研究所、試験研究機関及び博物館等とのネットワークを構築し、全国 19 湖沼を対象に湖沼の生物多様性の現状を評価することを試みた。純淡水魚と水生植物に関する過去の分布情報を網羅的に収集するとともに、モニタリングにより生物群の情報を収集し、これらを整理して共通の指標で評価した。併せて、本ネットワークによる湖沼の生物多様性広域モニタリングの有効性と課題について議論した。

1) 国立研究開発法人国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター、2) 東邦大学理学部生命圏環境科学科、3) 鳥取県衛生環境研究所、4) 地方独立行政法人青森県産業技術センター内水面研究所、5) 福島県内水面水産試験場、6) 熊本市環境総合センター、7) 鳥取県栽培漁業センター、8) 静岡県環境衛生科学研究所、9) 浜松市保健環境研究所、10) 山梨県衛生環境研究所、11) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部環境科学研究センター、12) 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター、13) 島根県保健環境科学研究所、14) 茨城県霞ヶ浦環境科学センター、15) 福井県海浜自然センター、16) 福井県衛生環境研究センター、17) 鹿児島県環境保健センター、18) 名古屋市環境科学調査センター、19) 愛知県環境調査センター、20) 熊本市立熊本博物館、21) 島根県水産技術センター、22) 神奈川県水産技術センター内水面試験場、23) 宮城県保健環境センター

投稿雑誌等

保全生態学研究 (Japanese Journal of Conservation Ecology) 21, 155-165, 2016